

テーマ	「食」をベースとした「オーガニック」「SDGs」提案型マーケット・エコロジーセンター施設プラン
-----	---

尾根幹線沿いに「オーガニック」と「SDGs」を主軸にした、コミュニティ向けパーク型エコロジーセンター・ファーマーズマーケットを新設し、都内で（願わくば日本中で）最も盛んなオーガニック・SDGs 取組み拠点・実践・発信拠点（オーガニックホットスポット）として、多摩市のブランディングを図る。



（イメージ図）



・**キーワード**：オーガニック、SDGs（サステナブル）地域活性、エコロジカル、ダイバーシティ（多様性）、脱プラスチック、産学共同、健康、食育

・**ブランディング**：既に市として掲げている「多摩市気候非常事態宣言」に沿い、またスローガンとして掲げている「健幸都市・多摩」に基づき、「食」を主軸としたブランディングを通してSDGsに取り組む将来的にも魅力的な市の価値創造を行う。

・**背景**：欧米はもちろん、オーストラリア、中国、インドも含め、世界中でオーガニック市場の成長は著しい。日本はまだこれからというものの、農水省のレポートによると今後の市場拡大は日本でも予測されている。（具体例は後述）思い切った「市としてオーガニックに取り組んでいく」と掲げている市町村は国内はまだ多くない。SDGsへの取り組みを市として掲げ、都内でその立ち位置を築いていくことは、「将来住みたい」と思われる市としての魅力創造の種にもなる。SDGsに向き合うならば「食」を考えることは不可避である。多摩として「オーガニック」というキーワードを軸に、ダイバーシティに富んだコミュニティ目線の地域活性化活動を行い、SDGsに沿ったアクションプランを実践することを目指すことが本提案の背景となっている。

> **具体例1**：農林水産省が行なった調査によると、日本の有機食品市場は、1,850 億円（2018 年推計）、民間企業が行った 2009 年度の調査に対し 42% 拡大。

> **具体例2**：アメリカの [Organic Trade Association](#) 発行の [Organic Hotspot 白書\(2016\)](#) によると、アメリカでは近年オーガニック市場成長が確認されており、オーガニックに積極的に取り組んでいるコミュニティ（＝「オーガニックホットスポット」）は、そうでない地域と比べ家計平均収入の増額、貧困率低下傾向が高く、経済効果が見込める結果が確認されている。

> **具体例3**：[IFOAM – Organics International](#)（国際有機農業運動連盟）世界の有機圃場が過去最高を記録（2019 年 2 月）

<ポイント（ポテンシャル）>立地、SDGs

世界の傾向から国内でも今後ますますSDGsや食の安全に取り組みが望まれることが予想される中、多摩市としての積極的な活動挑戦の拠点としての土地活用のアイデアを以下ポイントを根拠に提案致します。

「健幸都市多摩」

・多摩市と近隣住人の健康意識が向上傾向—コロナ禍の影響もあり、市内近郊住人の尾根幹線沿いの運動活動が活発化（ウォーキング、ジョギング、サイクリングなど）。

健幸都市



「尾根幹線と近隣施設」



・多摩市の運動関連施設からの容易なアクセス—「横山の道」「南豊ヶ丘サッカーグラウンド」「陸上競技場」など運動に関連した施設とその利用者（＝上述の健康に意識の高い人たち）が立ち寄りやすい立地的利点

・尾根幹線沿いという市内外から至便なアクセス—車でもアクセスが良く、市外からの来訪者も期待できる（駐車場スペース確保は必須）

・近隣教育施設の存在—尾根幹線沿いに大学が3校（恵泉女学園大学、国土舘大学、多摩大学）あり、若い世代の施設活用や食の啓蒙の場所になり得る。

・エコプラザ、リサイクルセンターという多摩市の環境関連施設も幹線上にあり、連携が期待できる。

<具体的プラン>下記施設エリアを作ると共に、市内各所で行われている活動と連携させていく。

1. 「オーガニック・ビオ、自然栽培の食材の販売」—（できれば）

脱プラスチック、量り売りなど取り入れるシステムを試験的に導入・実践の場とする。多摩に限らず近郊の若手・新規参入農家やビジネスオーナーを積極的にサポートしていく。）運営も外部委託ではなく多摩市内組織とし、市内での雇用機会を生むことを目指す。



2. 「オーガニック/エコロジカルと関連した衣類、家具、ハンドメイド製品ブランドの誘致、販売機会を提供」—多摩市として承認、応援

していく商品やプロジェクトなどの一時/長期販売スペースを確保



3. 「地域交流を促すオーガニック・ビオ食材を活かしたレストラン、

コーヒーショップ常設」—多様な人員雇用を生む可能性を作る。

オーガニックに限らず、菜食、ヴィーガン食なども取り入れた多様な食の選択肢を提供。幹線沿いの運動施設や散歩道利用者の誘引、新たな人の流れを作る。陸上競技場など利用の国内外プロスポーツ選手に良質な食の提供の場を作ることを目指す。



4. 「ヨガ、体操、環境教育、その他 S D Gs に絡めた講師を招待したワークショップや体験活動を開催できる屋内・屋外施設を設置」—施設を S D Gs 教育・地球学研究施設としてのエコロジーセンター、コミュニティセンター機能を含む



5. 「ランナーズステーション、ロードバイクステーションを兼ねた設備を設置」—有料シャワー、ロッカールームなどを備え # 3 の食育にもつなげる。



6. 「オーガニック給食の推進」—施設の拡充に留まらず、多摩市内の食の在り方の変革にも取り組み世界トレンドに足並みを揃える。新設マーケットと幹線沿いの給食センターを連携させ、オーガニック給食を普及させ、合わせて文化的宗教的背景・アレルギーなど多様な状況に対応できるだバーシティ対応型の給食を提供できるようにする。
(多様性を受け止める次世代の給食を提案。) 市役所など市の施設内でもオーガニック食のカフェ併設、お弁当販売なども行う。



(参考：千葉県いすみ市の学校給食米全量オーガニックの[例](#))

7. 「産官学連携」—「オーガニック」「S D Gs」を軸に、尾根幹線沿いの恵泉女学園大学、多摩大学、国士舘大学といった教育団体、多摩市内の小中高校と、多摩市内企業とも連携。若い発想や栄養学、スポーツ学、地球学と絡んだ企画を試していく産官学連携の共同プロジェクトを実施していく拠点を作る。



8. 「リサイクルセンター、エコプラザとの連携したエコロジカルな施設として建築プランを立てる」—「バイオレメディエーション (生物学的環境修復)」や「パイロジェネシス」のようなプラズマ廃棄物利用エネルギー導入による運営機能を施設に設置。環境技術に興味のある来場者を誘致し、エコ分野においても多摩

市の先進性を世に打ち出す。(参考：英国コーンウェルのエコツーリズムでも成功している[エデン・プロジェクト](#)。宿泊型施設の導入もアイデアかもしれません。)



9. 「オーガニック菜園体験スペース」—有機農業・自然農を市民が体験できるファーム (ポタジェ?) を施設エリアに設ける。上述 1、3 でこの場での生産物の提供も視野に入れる。

以上、尾根幹線沿い開発、及び、今後の多摩市のまち作りアイデアとして提案致します。

お住まい	年代	ご職業等
市内 (聖ヶ丘)	・ 40 代	・ 主婦 (主夫) 等